

### Ⅲ. インクルDBの事例から見た合理的配慮

#### 1. インクルDBについて

インクルDBは、国立特別支援教育総合研究所が運営し、インクルーシブ教育システムに関する情報を掲載しているウェブページである。

このウェブページ内にある「合理的配慮」実践事例データベースは、文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」において取り組まれた実践事例を検索、閲覧できるもので、平成31年2月1日現在で、380件の事例データが掲載されている。

この事例データでは、子供の実態や学習の様子などとともに、基礎的環境整備の8項目、合理的配慮に関する3観点11項目の項目毎に記述がされている。また、障害種や対象児童生徒等の在籍状況等、キーワードによる事例検索ができるようになっており、利用者が対象となる児童生徒の基礎的環境整備や合理的配慮内容を検索し、実践の参考にする事ができるようなシステムとなっている。

#### 2. インクルDB事例分析の目的と方法

このインクルDBの実践事例の記述は、基礎的環境整備と合理的配慮の項目毎の実践内容が記述されている。特に合理的配慮の部分では、子供の困難さがどのようなものか、その困難さに対してどのような配慮を行ったのかが記述されている。

この章では、この点に着目し困難さに対して、どのように合理的配慮を行っているのかを整理することで、次年度に作成する予定の合理的配慮に関する研修資料（仮題）の基礎資料とする事を目的とした。この基礎資料は、小・中学校の特別支援教育コーディネーター等の特別支援教育体制の構築を担う教師が、児童生徒の支援内容を考える際に、困難さに対しての合理的配慮例を参照したり、更に詳しく知りたい場合に事例に当たる手掛かりとなったり、同僚教師からの相談の際に取り組みそうな合理的配慮を一緒に考えたりする際に使えるものと考えている。

インクルDBの困難さと合理的配慮の整理方法としては、小・中学校の事例のうち、対象児童生徒等の在籍状況等が通常の学級または通常の学級・通級による指導事例142件を対象にし、このうち、合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮、合理①-1-2 学習内容の変更・調整の項目に記述されている、困難さと合理的配慮内容を抜き出し、それぞれの困難さと合理的配慮内容について分類整理することとした。

この合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮、合理①-1-2 学習内容の変更・調整の二つの項目は、学校生活や学習における困難さに対しての合理的配慮内容となっており、他の項目と比べても対象となる児童生徒の困難さを中心に、合理的配慮内容が記述されている。

困難さと合理的配慮の要素を抜き出すに当たっては、基本的に「A児には～の困難さがあるために、～な合理的配慮を提供した」や「A児には～の苦手さがあるために、～な合理的配慮を提供した」といった記述を拾い上げた、また具体的に困難さが記述されていない場合には、事例データの冒頭に記述している児童生徒の実態の内容から、対応する困難さを補って抜き出している。また、困難さに対して複数の合理的配慮を提供している場合には、合理的配慮毎に分けて、それぞれ独立したデータとして扱っている。

整理の際には、困難さの分類として、認知に関する先行研究における分類や、自立活動における分類などを検討してきたが、新学習指導要領に記述されている児童生徒の障害の状態等に応じた指導の工夫等に書かれている困難さの例を元に整理することにした。

新学習指導要領解説の各教科で共通して記述されている困難さは、(表 3-1) のようになる。この困難さに当てはまらないものは、その他に分類し、どのようなものがあるかを見てみることにした。

表 3-1 各教科で共通に示されている困難さ

---

見えにくさ
聞こえにくさ
道具の操作の困難さ
移動上の制約
健康面や安全面での制約
発音のしにくさ
心理的な不安定
人間関係形成の困難さ
読み書きや計算等の困難さ
注意の集中を持続することが苦手

---

### 3. 結果

#### (1) 困難さと合理的配慮内容について

142 件の事例データの合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮、合理①-1-2 学習内容の変更・調整の項目から抽出された、困難さと合理的配慮内容から、368 件のデータを得ることができた。そのうち、内容として通級による指導を挙げている 13 件を除いた 355 件のデータについてカテゴリーに分け、整理している。

また、表 3-1 の 10 カテゴリーについては、似た合理的配慮内容毎にわけ、それぞれ内容を示すラベルをつけて示している。その他については、困難さの違いだけを示している。

以下にカテゴリー毎に整理した結果を示す。また、困難さと合理的配慮内容が重複す

るものについてはまとめて、ファイル名だけを示した。

カテゴリー毎に整理した結果は、図 3-2 以下に示した。

見えにくさについて（表 3-2）は、31 データあり、整理された合理的配慮内容は 24 例であった。合理的配慮内容は、「環境整備」、「機器等の活用」、「教材の工夫」、「指導の工夫」、「学習内容の変更・調整」で示すことができた。

聞こえにくさ（表 3-3）は、22 データあり、整理された合理的配慮内容は 17 例であった。合理的配慮内容は、「機器等の活用」、「指導の工夫」、「情報保障」、「代替」で示すことができた。

道具の操作の困難さ（表 3-4）は、3 データあり、整理された合理的配慮内容は 3 例であった。合理的配慮内容は、補助具の活用で示すことができた。

移動上の制約（表 3-5）は、12 データあり、整理された合理的配慮内容は 12 例であった。合理的配慮内容は、「環境整備」、「指導の工夫」、「学習内容の変更・調整」で示すことができた。

健康面や安全面での制約（表 3-6）は、7 データあり、整理された合理的配慮内容は 7 例であった。合理的配慮内容は、「指導の工夫」、「環境整備」、「学習内容の変更・調整」で示すことができた。

発音のしにくさ（表 3-7）は、5 データあり、整理された合理的配慮内容は 5 例であった。合理的配慮内容は、「対応の工夫」、「環境の整備」で示すことができた。

心理的な不安定（表 3-8）は、26 データあり、整理された合理的配慮内容は 26 例であった。合理的配慮内容は、「環境整備」、「指導の工夫」、「見通しをもたせる工夫」で示すことができた。

人間関係形成の困難さ（表 3-9）は、7 データあり、整理された合理的配慮内容は 7 例であった。合理的配慮内容は、「環境の整備」、「対応の工夫」、「指導の工夫」で示すことができた。

読み書きや計算等の困難さは、91 データあり、整理された合理的配慮内容は 54 例であった。内容によって、読みの困難さ（表 3-10-1）、読取りの困難さ（表 3-10-2）、計算の困難さ（表 3-10-3）、書きの困難さ（表 3-10-4）に分けている。合理的配慮内容は、読みの困難さについては、「指導の工夫」、「教材の工夫」、「代替」で、読取りの困難さについては「教材の工夫」、「指導の工夫」で、計算の困難さについては、「学習内容の変更・調整」で、書きの困難さについては、「書く量の調整」、「代替」、「時間の調整」、「教材の工夫」、「指導の工夫」で示すことができた。

注意の集中を持続することが苦手（表 3-11-1、表 3-11-2）は、63 データあり、整理された合理的配慮内容は 55 例であった。合理的配慮内容は、「環境整備」、「機器の活用」、「対応の工夫」、「学習の変更・調整」、「指導の工夫」で示すことができた。

その他の困難さに関する合理的配慮は、88 データあり、整理された合理的配慮内容は 82 例であった。困難さは、「一斉指導での指示理解の苦手さ」、「発言の困難さ」、「学

習意欲の低下」、「学習内容の理解」、「身の回りのことに関する困難さ」、「時間を意識して行動することが困難」、「短期記憶の弱さ」、「見通しのもちにくさ」、「排泄の困難さ」、2例以下の困難さで示すことができた。その他のカテゴリーの困難さは、学級全体で行動する際の困難さ（「一斉指導での指示理解の苦手さ」、「発言の困難さ」、「時間を意識して行動することが困難」、「見通しのもちにくさ」）や、生活スキルや身辺自立に関する困難さ（「身の回りのことに関する困難さ」、「排泄の困難さ」）、学習に関する心理的・認知的な困難さ（「学習意欲の低下」、「学習内容の理解」、「短期記憶の弱さ」）をみることができた。

表3-2 見えにくさに関する合理的配慮

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>環境整備</b>		
見えにくさ	ロッカーや靴箱はなるべく目立つ場所にしたり、目印をつけるようにした。	H27 0215PT1-VI
見えにくさ	座席は前方にして、なるべく板書が見やすく、教員の指示を受けやすいようにしている。	H27 0215PT1-VI,H27 0026PC4-VI
見えにくさ	体育では、ボールを見えやすい色のものにするなど、見えやすいような工夫をしている。	H27 0215PT1-VI,H27 0026PC4-VI
見えにくさ	使用する靴箱の扉に鈴をつけ、場所を確認できるようにした。	H27 0268PC6-VI
見えにくさ	教室の座席位置は、拡大読書器を使うとき(主に国語と算数)が一番後ろの座席に、また具体物を実際に触って、見て確かめる場合は一番前の座席に座るようにしている。	H26 0138PC1-VI
見えにくさ	校内の移動誘導や通訳等を行う合理的配慮協力員(介助員)を配置した。	H27 0268PC6-VI
見えにくさ	A児は、黒が一番見えやすいので、なるべく支援員は黒やそれに近い色の服を着て、位置が分かりやすいようにしている。	H26 0138PC1-VI
見えにくさ	掃除の時間は、無言で掃除をすることになっているが、A児には支援員が小さな声掛けをすることについて学校全体で共通理解をしている。	H26 0138PC1-VI
<b>機器等の活用</b>		
見えにくさ	書見台を利用している。	H26 0022PC3-VI,H27 0215PT1-VI
見えにくさ	単眼鏡やルーペの活用した。	H26 0315PT3-VI,H26 0022PC3-VI,H27 0026PC4-VI
見えにくさ	タブレット型端末を活用した。	H27 0026PC4-VI,H26 0022PC3-VI
見えにくさ	拡大鏡を活用した。	H27 0026PC4-VI
<b>教材の工夫</b>		
見えにくさ	プリントは拡大している。	H26 0138PC1-VI,H27 0215PT1-VI
見えにくさ	プリントは文字を書く部分の枠を浮き出るようにしている。	H27 0215PT1-VI
見えにくさ	プリントのマス目をフェルトペンで濃くなぞりマス目を分かりやすくする。	H26 0138PC1-VI
見えにくさ	テストの際は、解いている問題だけが見えるようにして、他の問題は隠して、見るものだけをはっきりとさせる。	H26 0138PC1-VI
見えにくさ	表示する絵や図などの視覚教材は、濃くてコントラストがはっきりとしたものにする。	,H26 0138PC1-VI
見えにくさ	拡大教科書を利用している。	H26 0022PC3-VI,H27 0215PT1-VI
<b>指導の工夫</b>		
見えにくさ	席を移動する際は、前方に来るときの言葉掛けと後方に下がるときの言葉掛けをしている。	H26 0138PC1-VI
見えにくさ	自主性を尊重するために、全てにおいてすぐ手を貸すのではなく、なるべく見守り支援をする。	H26 0138PC1-VI
見えにくさ	文字を書く際にカ行・ラ行・タ行などを混乱して書いてしまうため、文章を書くときはA児と一緒に読み、見直しを行っている。	H26 0138PC1-VI
見えにくさ	給食のときは、まず、においを嗅がせ、メニューと中に入っている材料を伝える。	H26 0138PC1-VI
<b>学習内容の変更・調整</b>		
見えにくさ	ボール運動など対象物に視線を合わせにくい場合は、A児が落ち着いて参加できる範囲での参加を認めている	H26 0315PT3-VI

表3-3 きこえにくさに関する合理的配慮

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>機器等の活用</b>		
聞こえにくさ	FM補聴システムを活用した。	H26 0155PT5-HI,H27 0206PT4-HI,H25 0100PT1-HI,H25 0012PT4-HI,H27 0213PT6-HI
聞こえにくさ	タブレット端末を活用した。	H27 0213PT6-HI
<b>指導の工夫</b>		
聞こえにくさ	音楽での支援(演奏中に楽譜を指さすなど)をした。	H26 0155PT5-HI
聞こえにくさ	英語で聞こえにくい子音について、文字による視覚支援やタブレット端末を活用した。	H27 0213PT6-HI
聞こえにくさ	授業中の説明では、注意が向いている事を確認し、口形がはっきり見えるようにする。	H27 0206PT4-HI
聞こえにくさ	学級担任は、A児が話し手に注目していることを確認してから、話をするように心掛けた。	H25 0100PT1-HI
聞こえにくさ	国語科の聞き取りテストでは、読み上げに合わせながら内容を少しずつ見せていくようにした。	H25 0012PT4-HI
聞こえにくさ	教科の学習では、教科書を実物投影機で映し出し、読んでいる部分を教員が指差しすることで本人が確認できるようにした。	H25 0013PT5-HI
聞こえにくさ	個別指導で音程を確かめながら時間を掛けて練習し、全体練習に備えるようにした。	H27 0206PT4-HI
<b>情報保障</b>		
聞こえにくさ	遠足や校外学習の際は、視覚的な情報の提示をした。	H26 0256PT1-HI
聞こえにくさ	ノートテークや生活上の情報保障のための支援員を配置した。	H26 0162PT6-HI
聞こえにくさ	支援員や合理的配慮協力員がホワイトボードを利用して、視覚支援をした。	H27 0206PT4-HI
聞こえにくさ	支援員による情報補償をした。	H25 0012PT4-HI,H25 0013PT5-HI
聞こえにくさ	映像に字幕をつけた。	H26 0155PT5-HI
<b>代替</b>		
聞こえにくさ	聞き取りテストで代替問題にした。	H26 0256PT1-HI
聞こえにくさ	音楽の評価で意欲・関心も踏まえた。	H26 0256PT1-HI
聞こえにくさ	音楽科の歌唱、音楽鑑賞などでは、A児の学習への取組の様子等を踏まえ、丁寧な評価をするようにした。	H25 0012PT4-HI

表3-4 道具操作に関する合理的配慮

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>補助具の活用</b>		
指先の力の弱さ	鉛筆を2Bにし、太くて握りやすいグリップをつけた。	H27 0248PT3-LD
手先の微細な動きに対する困難さ	補助機能コンパスを利用した。	H27 0284PT3-LDAD
運動の困難さ	リコーダー奏は、右小指の動きのコントロールが難しいため、全部の穴が可動式のリコーダーを用いた。	H25 0031PC3-PD

表3-5 移動の困難さに関する合理的配慮

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>環境整備</b>		
移動の困難さ	特別支援教育支援員の付き添った。	H27 0128PT3-PD
移動の困難さ	車いすが出入りしやすいように、座席を一番後ろの入り口近くの位置にした。	H27 0128PT3-PD
移動の困難さ	全校児童に対する廊下歩行等、安全面での指導をした。	H26 0386PC5-PDLD
移動の困難さ	つまずきやすい場所、降雨時など滑りやすい箇所の点検をした。	H26 0386PC5-PDLD
移動の困難さ	登下校の車での送迎時に、保護者と学校教職員が介助した。	H26 0386PC5-PDLD
移動の困難さ	通常の学級の机を、車椅子利用に合わせた形状のものに変更した。	H26 0386PC5-PDLD
移動の困難さ	通常の学級の座席の位置を前方の出入口近くとし、荷物置きを手の届く範囲に設置した。	H26 0386PC5-PDLD
移動の困難さ	松葉杖利用時には、集会に座って参加できるよう椅子を用意した。	H26 0386PC5-PDLD
<b>指導の工夫</b>		
移動の困難さ	階段移動は、症状の改善に合わせて介助(背負う、手を貸す、見守る)した。	H26 0386PC5-PDLD
移動の困難さ	移動ルートを見直して、移動距離と移動時間の短縮を図った。	H25 0024PT3-He
<b>学習内容の変更・調整</b>		
移動の困難さ	体育では身体機能向上のための個別活動、集団に参加の場合は内容の変更を行った。	H27 0128PT3-PD

表3-6 健康面や安全面での制約に関する合理的配慮

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>指導の工夫</b>		
健康面での困難さ	喀痰吸引の指導をした。	H26 0257PS1-He
先天性白皮症対策	日にあたらないような服装になるよう声掛けしたり、日向での活動を避けるようにした。	H27 0215PT1-VI
<b>環境整備</b>		
健康面での困難さ	保護者との連携(連絡カード、電話、面談)をおこなった。	H26 0257PS1-He
健康面での困難さ	立ったまま靴を履き替えるのに努力を要するため、靴棚の位置を出し入れしやすい高さにした。	H25 0024PT3-He
<b>学習内容の変更・調整</b>		
健康面での困難さ	マラソン大会で走る距離の変更をした。	H26 0257PS1-He
健康面での困難さ	体育で、役割分担を配慮することで参加できている環境づくりをした。	H26 0257PS1-He
食事制限	給食の食事量の調整をした。	H26 0247PC3-He

表3-7 発音のしにくさに関する合理的配慮

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>対応の工夫</b>		
発音の困難さ	発言する時間を十分に確保した。	H27 0218PT3-SI
発音の困難さ	発言前には、心の準備ができるように事前に予告した。	H27 0218PT3-SI
発音の困難さ	発音の間違いへの指摘方法を工夫した。	H27 0218PT3-SI
発音の困難さ	話すときには、絵や図で表現した。	H27 0194PC3-IDSI
発音の困難さ	座席の近くに関わりの経験の長い児童を入れるようにし、自然に話せるような環境作りを行った。	H27 0085PC2-Si



表3-8心理的な不安定に関する合理的配慮

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>環境整備</b>		
こだわりによる不満や いらだち、不安	保護者や各関係者との情報共有を行った。	H27 0143PC2-AuAD
参加の抵抗感	参加グループの工夫、場や内容の変更調整を行った。	H27 0174PC1-Au
学習への不安	最前列に座席を配置し、机間指導の際に個別に言葉掛けしやすいようにした。	H25 0089PC6-ED
<b>指導の工夫</b>		
口頭での指導に対しての 心理的な抵抗	支援に入った教員が急かしたりせず、やり遂げるまで待つ、事前に対応する指導内容についてサインを決めておいた。	H27 0196PC4-AuAD
感情のコントロール についての困難さ	好きな事に集中して気持ちを切り替えられるようにした。	H25 0115PT2-AuAD
思い通りにならない場合の 不満な不安	時間割の変更やいつもと違うことがあるときには、事前に何が起こるか を伝えるようにした。	H26 0345Pt2-IDAu
<b>対応の工夫</b>		
こだわりによる不満や いらだち、不安	場面毎に声掛けをした。	H27 0143PC2-AuAD
こだわりによる不満や いらだち、不安	不安や不満についての話し合いを行った。	H27 0143PC2-AuAD
緊張して動けない	支援員が手助けする様にした。	H25 0121PC6-ED
指示の通りにくさ	受容的に受け止めた上で、理由を示して説明した。	H27 0166PT6-AD
<b>見通しを持たせる工夫</b>		
初めて行う学習に 不安をもつ	事前学習を行った。	H27 0007Pt1-Au
こだわりによる不満や いらだち、不安をもつ	宿題の一覧表や進捗の視覚化で見通しを持たせた。	H27 0143PC2-AuAD
見通しがもてないこと に不安をもつ	失敗や見通しがもてないことに不安があり、登校できない状況であった。 そのため、2週間分の学習予定プリントを配付し、見通しをもたせた。	H25 0077PC1-AuAD
気分がむらがあり 不安定	見通しを持たせるようにした。	H25 0040PC3-ED
初めて行う事に不安 をもつ	連絡黒板に書かれたことについて、朝の会や帰りの会で説明をするようにしてきた。	H26 0392PC2-Au
初めて行う事に不安	行事の前には、どんなことをするか、どこへ行くか、どんな持ち物を用意すれば良いか等を説明するようにした。	H26 0392PC2-Au
初めて行う事に不安 をもつ	学習の基本的な支援として、学習上のルール(板書構成、ノートの書き方、机上の学習用具の置き方等)の統一を行い見通しを持ちやすくした。	H25 0025PC2-AuED
初めての行事や活動に 不安感	口頭説明をホワイトボードに書き示したり、事前に説明すること情報不足を解消した。	H27 0206PT4-HI
新しい経験や見通し の持ちにくい活動への不安 をもつ	無理に始めから参加させるのではなく、初回は活動の様子を見学し活動内容が把握できるようにした。	H25 0097PT3-Au
<b>環境整備</b>		
不安になり落ち着かない、 パニックになる	クールダウンできる場所を用意した。	H25 0066PT3-ED,H25 0032PT4-AD,H27 0166PT6-AD,H25 0115PT2-AuAD,H26 0435PT6-IDAu
初めて行う事に不安 をもつ	座席は最前列に指定して個別に言葉掛けをするようにした。	H25 0025PC2-AuED

表3-9人間関係形成の困難さに関する合理的配慮

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>環境の整備</b>		
コミュニケーション	着席場所の工夫(担任の近く、関係の良い同級生の近く)をした。	H26 0435PT6-IDAu
<b>対応の工夫</b>		
対人関係の困難さ	他の児童とのトラブル時には、出来事を時系列に記録し、前後関係を視覚的に明確にした。	H25 0115PT2-AuAD
対人関係の困難さ	ルールにそぐわない場合は指摘し、内容を確認した。	H25 0115PT2-AuAD
対人関係の困難さ	トラブルになりやすい友達との関わり方を教え、上手くできている時には評価するようにした。	H26 0343PT-Au
気持ちを適切に表現することの困難さ	担任が行動の変化を読み取り、状況を聞き出し介入するようにした。	H25 0092PT3-LD
<b>指導の工夫</b>		
人間関係の形成	ペア学習やグループ学習を積極的に導入し、コミュニケーション能力の向上を図るようにした。	H25 0089PC6-ED
コミュニケーションの困難さ	合理的配慮協力員も一緒に他の児童と遊ぶ機会を増やした。	H27 0206PT4-HI

表3-10-1 読み書きや計算等の困難さに関する合理的配慮（読みの困難さ）

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>指導の工夫</b>		
読みの困難さ	座席位置を教卓の前にして、担任がすぐに指導できるようにした。	H26 0148PT3-LD
読みの困難さ	単元の一時間目に範読後におおまかな内容を説明するようにした。	H27 0211PT6-LD
読みの困難さ	個別指導や、小グループの指導を設けた。	H27 0262PC4-LD
読みの困難さ	個別の巡回指導時に読み上げた。	H27 0284PT3-LDAD,
読みの困難さ	読んでいる場所が分からなくなるときは、学級担任や支援員が読んでいるところを指し示すようにした。	H27 0333PT3-LD,H26 0148PT3-LD,H27 0206PT4-HI
読みの困難さ	リーディングスリットを利用した。	H26 0146PC4-EDLD,H27 0127PC5-LDAD,
読みの困難さ	定規を当てながら一行ずつ黙読させたり、指で文字を追って読ませたりした。	H26 0107PC4-LD,H25 0108PT3-AuAD,
読みの困難さ	文節で切って、意味を確かめながら読むようにさせた。	H26 0107PC4-LD,H26 0342PT2-LD,
読みの困難さ	授業中に分からない言葉があるときには、すぐに辞書が引けるように机の横に国語辞典を袋に入れて掛けるようにした。	H26 0107PC4-LD
読みの困難さ	国語科教材文を形式段落や場面のまとまりごとに区切って読ませ、慣れてきたら分量を増やすようにした。	H25 0003PT4-AD
読みの困難さ	読み出すところが分かるように、最初の一文目をよむように指名した。	H26 0342PT2-LD
読みの困難さ	短文の場合は、指で文字をなぞりながらよむように促した。	H27 0127PC5-LDAD
<b>教材の工夫</b>		
読みの困難さ	読めない漢字にふりがなを振るようにした。	H27 0333PT3-LD,H26 0146PC4-EDLD,H26 0148PT3-LD,H25 0014PT6-LD,H27 0284PT3-LDAD,,,
読みの困難さ	ルビ振りや、文章の区切りに斜線をひくようにした。	H26 0146PC4-EDLD
読みの困難さ	1行分空けた画用紙を使って文を追いながら読ませる	H27 0333PT3-LD
読みの困難さ	タブレット端末を活用して学習した。	H26 0148PT3-LD
読みの困難さ	教科書を拡大コピーして、文字を読みやすくした。	H26 0164PT6-LD,H25 0068PT5-LD,
読みの困難さ	音読専用教科書を授業中や家庭学習で使用した。	H25 0092PT3-LD
音読が困難	単元ごとにデジタル教科書のルビ付教材を活用した。	H26 0278PC4-LD
<b>代替</b>		
読みの困難さ	教員や支援員が問題文を読み上げ、問題の内容について説明するようにした。	H27 0333PT3-LD,H27 0333PT3-LD,H26 0148PT3-LD,H26 0342PT2-LD,H26 0566PT4-ED,H25 0014PT6-LD,H25 0014PT6-LD,H27 0380PC5-LD

表3-10-2 読み書きや計算等の困難さに関する合理的配慮（読取りの困難さ）

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>教材の工夫</b>		
文章の読み取り	国語のテスト問題文に簡潔な説明をつけた。	H27 0194PC3-IDSJ
文章の読み取り	一場面を一枚のワークシートにまとめることができるように、教材やまとめ方を工夫するようにした。	H27 0273PT1-AuAD
文章読み取りの理解	国語の物語文教材における登場人物の気持ちの読み取りには、表情を描いた顔の絵を使用した。	H26 0313PT2-SIAu
<b>指導の工夫</b>		
文の読み取り	文節毎に区切って学級全体で音読し、文の内容をつかめるようにした。	H27 0218PT3-SI
文章の読み取り	設問意味を明確化した。	H27 0143PC2-AuAD

表3-10-3 読み書きや計算等の困難さに関する合理的配慮（計算の困難さ）

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>学習内容の変更・調整</b>		
計算が困難	筆算の途中計算で行われる引き算の部分を発表させるなど、学習進度に応じて内容の精選を図り、達成感や成就感を味わうことができるようにした。	H25 0088PT6-IDAu

表3-10-4 読み書きや計算等の困難さに関する合理的配慮（書きの困難さ）

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>書く量の調整</b>		
書くことの困難さ	穴埋め式のワークシートを利用し、書く量を軽減した。	H26 0164PT6-LD,H25 0068PT5-LD,H25 0115PT2-AuAD,H25 0025PC2-AuED,H25 0089PC6-ED,H25 0027PT5-AD,H26 0433PT3-AuAD,H27 0211PT6-LD,H27 0284PT3-LDAD
書くことの困難さ	視写やドリル的な学習では、A児と相談し課題の量を調整するようにした。	H25 0099PT2-AuAD,H26 0343PT-Au
書くことの困難さ	計算では答えだけを書くようにした。	H25 0115PT2-AuAD
書くことの困難さ	課題プリントをノートに貼ることで書く負担を減らすようにした。	H25 0027PT5-AD,H25 0025PC2-AuED,H25 0089PC6-ED
書くことの困難さ	板書時は重要な部分のみにして、ノートに書く量を減らした。	H26 0547PC3-AuAD,H27 0211PT6-LD
活動や作業が遅れる	ノートに書き取る内容は、色チョークで示したところだけにして、書き取りの負担を減らすようにした。	H26 0107PC4-LD
<b>代替</b>		
書くことの困難さ	マスに合わせて文字を書く際には、担任が個別に聞き取りを行ったり、別枠に答えさせたりした。	H25 0101PT5-LD
書くことの困難さ	ワークテストやドリルの計算問題ではノートに書き写す作業は難しいため、支援員が代筆するようにした。	H25 0094PT4-AD
書くことの困難さ	板書を写真に撮り、教室内に掲示する。	H26 0164PT6-LD
板書の苦手さ	タブレット端末で黒板を撮影した後に、手で板書できるようにした。	H27 0252PC3-LD
書字の苦手さ	教科書に直接書かせたり、重要語句のみを書かせたり、タブレット端末で板書を撮影させたりなど板書の軽減をした。	H27 0248PT3-LD
体育での順位や結果へのこだわり	書字に係る負担の軽減を図るために、タブレット型端末の使用を認め、授業の終わりにポイントとなる板書の部分をカメラで撮り、家でその写真を見ながら復習できるようにした。	H25 0021PT4-LD
<b>時間の調整</b>		
書くことの困難さ	書く時間を十分に確保した。	H26 0146PC4-EDLD,H25 0099PT2-AuAD,H26 0146PC4-EDLD
書くことの困難さ	時間を確保したり、特に大切な部分だけを重点的に取り組んだり、課題の量を調整した。	H25 0098PT2-AuLDAD,,H25 0098PT2-AuLDAD
<b>評価の変更</b>		
書くことの困難さ	書字のとめ、はね、はらいは留保し、内容を評価した。	H26 0547PC3-AuAD,H26 0547PC3-AuAD
書くことの困難さ	書く量の軽減をし、字形が整わない点については、ある程度許容した。	H25 0092PT3-LD,H25 0092PT3-LD
<b>教材の工夫</b>		
書くことへの苦手意識	マス目を大きくしたり、プリント類を拡大した。	H27 0174PC1-Au,,H26 0433PT3-AuAD
書くことへの苦手意識	書く文字数を減らし、行間を開けて書くようにした。	H26 0433PT3-AuAD,,H27 0284PT3-LDAD
書きの困難さ	大きなマス目で補助線が入ったノートを利用するようにした。	H27 0284PT3-LDAD,H27 0246PC3-AD,H27 0218PT3-SI
漢字書字の困難さ	手本を見ながら書くのが苦手なため、なぞり書きで書けるようにした。	H27 0218PT3-SI,,H27 0252PC3-LD
漢字読みの困難さ	読みが難しい漢字に読み仮名を振るようにした。	H27 0252PC3-LD
<b>指導の工夫</b>		
書くことの困難さ	A児の座席を前にして、個別の声掛けがしやすいようにした。	H25 0021PT4-LD
板書の苦手さ	5文字程度で区切り、ゆっくり書く、書く際に同時に読み上げながら書くようにした。	H27 0244PT3-LDAD
板書の苦手さ	読み上げながら板書することで、聴覚から情報が入るように工夫した。	H27 0264PT2-AuAD
書字の苦手さ	板書の際には、ノートと同じマス目を板書にもはり板書しやすいようにした。	H27 0246PC3-AD
漢字の書き取りへの苦手さ	褒める事で達成感を持たせた。	H27 0246PC3-AD

表3-11-1 注意の集中を持続することが苦手に関する合理的配慮(1)

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>環境整備</b>		
注意集中の持続	教室環境を整備し、視覚的な刺激を減らした。	H26 0547PC3-AuAD
注意集中の持続	教室外の刺激が入りにくい位置に座席をおいた。	H26 0547PC3-AuAD,H25 0092PT3-LD,H27 0091PC2-ADH27 0143PC2-AuAD
注意集中の持続	教室内のA児の座席については、担任の指導のしやすさや学級内の人間関係を考慮して配置した。	H25 0038PT5-AD,H27 0201PT2-AD,
注意集中の持続	質問や発表時は挙手をする事とし、音声刺激を減らすようにした。	H26 0547PC3-AuAD
注意集中の持続	モデルとなる児童を近くに座席を配置した。	H25 0092PT3-LD,H26 0392PC2-Au
注意集中の持続	お互いに影響を受け、落ち着かない行動をとりやすい児童と席をはなした。	H25 0115PT2-AuAD
注意集中の持続	席の配置を2番目より前にし、他の児童の動きがそれほど気にならない配置にした。	H26 0392PC2-Au,H25 0090PC3-Au
注意集中の持続	窓は、カーテンをするようにし、不要な刺激が入らないよう心掛けた。	H26 0392PC2-Au
注意集中の持続	集中力が持続しやすい1、2時間目に算数や国語の授業を設定した。	H25 0083PT6-AuAD
注意集中の持続	グループ活動では、親しい友達と一緒にするなど、グループ構成にも配慮した。	H25 0090PC3-Au
注意集中の持続	教科書やノートの代わりとなるワークシートを用意するなど、机の上が整然となるように心掛けた。	H25 0090PC3-Au
注意集中の持続	教室内の刺激量の調整をおこなった。	H25 0098PT2-AuLDAD
体育での順位や結果へのこだわり	クールダウンの場所の活用について関係教職員で共通理解した。	H25 0098PT2-AuLDAD
雑音が気になる	別室に移動し、静かに作業できる場所を確保した。	H25 0094PT4-AD
<b>機器の活用</b>		
集中の持続ができない	タブレット端末やプロジェクターの活用をした。	H27 0201PT2-AD
突然の発言や離席	授業内容やスケジュールを提示する事で見通しを持たせた。	H27 0196PC4-AuADH27 0116PC2-IDAu
集中できない	時間割の視覚化をおこなった。	H27 0091PC2-AD
注意集中の持続	小黒板に学習の流れを示して、学習の見通しが持てるようにした。	H26 0547PC3-AuAD
注意集中の持続	「いつまで、何をするか」時間や作業の見通しを持たせるようにした。	H25 0115PT2-AuAD
注意集中の持続	手順を黒板に書き、机の上には必要があるものだけ置かせるようにした。	H26 0392PC2-Au
注意集中の持続	教室の前に設置した学習内容を掲示するイーゼルまで行き、「どの学習段階をやっているのか」が一目で分かるように、印を付ける役割をA児に与えた。	H25 0090PC3-Au
注意集中の持続	課題が早く終わったときには、難易度の高い発展ワークシートや、A児が好きなクイズワークシートを交互に取り入れたファイルを作成し、周囲の児童が作業を終えるまでの間に、ワークシートに取り組んでもよいことにした。	H25 0090PC3-Au
注意集中の持続	声の大きさ、話す早さ、抑揚、間の取り方など音声言語による指示の工夫をした。	H25 0098PT2-AuLDAD
衝動性	授業が終わってから聞く機会を設けた。	H25 0115PT2-AuAD
活動や場にそぐわない発言や行動	好ましい行動をしている時には、表情やハンドサインで褒めた。	H27 0204PC4-EDAD
場面の切り替え	時間の予告を行った。	H25 0040PC3-ED
集団活動時の離席	担任や支援員が見本を見せたり、手を添えたりして支援した。	H27 0264PT2-AuAD
<b>学習の変更・調整</b>		
注意集中の持続	課題の従事時間を全般的に短めに設定し学習量の調整を行った。	H25 0095PT1-AD

表3-11-2 注意の集中を持続することが苦手に関する合理的配慮(2)

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>指導の工夫</b>		
注意集中の持続	授業全体を細かく区切ったり、図や絵を多く活用し内容を把握しやすいようにした。	H27 0246PC3-AD
注意集中の持続	全体で注目させた後、必要に応じて個別に声掛けをした。	H27 0273PT1-AuAD
注意集中の持続	授業中に一つの活動を集中して行えるよう、活動ごとの時間を区切った。	H26 0313PT2-SIAu
注意集中の持続	授業形態については、いつも学級担任の話を自席で聞くのではなく、黒板の前に学級児童全員を集め床に座らせ、A児を最前列にして聞かせることも行うようにした。	H26 0313PT2-SIAu
注意集中の持続	授業中に身体を動かす機会を意図的に増やした。	H25 0090PC3-Au,H27 0200PT2-AD
注意集中の持続	視覚的な教材の利用をした。	H25 0098PT2-AuLDAD
注意集中の持続	残り時間が視覚的に分かるタイマーをしようして時間制限をつけて集中して取り組めるようにした。	H25 0118PT2-ID,H27 0091PC2-AD
注意集中の持続	「作業への取り掛かり」「取り掛かりの数分後」「取り掛かり半ば」「作業終了時」などのポイントごとに、個別に褒めたり、励ましたりした。	H25 0098PT2-AuLDAD
注意集中の持続	作業的な課題では、「課題での取り掛かり」「取り掛かった数分後」「取り掛かり半ば」「課題の終了」の際に、仕上がりを確認し、その都度褒めて意欲を高め、最後まで取り組むことができるようにした。	H25 0099PT2-AuAD
注意集中の持続	可能な限り視覚支援を取り入れ、「見てすぐに分かる」配慮をした。	H25 0038PT5-AD
注意集中の持続	学級全体での指導の後に、個別に大切なポイントを伝える配慮をした。	H25 0038PT5-AD
集中が続かない	「あと30秒以内に書くようにする」など終わるまでの具体的な具体的な目標時間を示した	H27 0244PT3-LDAD
体育での順位や結果へのこだわり	学級担任の声掛けした。	H27 0091PC2-AD
集中できない	教材を興味関心を示せるものにした。	H27 0091PC2-AD
集中できない	次の授業準備の習慣化を行った。	H27 0091PC2-AD
集中できない	発問を短く明確にし授業づくりをした。	H27 0116PC2-IDAu
突然の発言	発言しなくなったら付箋紙にメモするように指導した。	H27 0201PT2-AD
突然の発言や離席	説明を簡潔にしたり、単語カードやイラストカードなどの視覚的な教材を活用する事で意欲を維持する。	H27 0196PC4-AuAD
学習に集中できない	学習支援員による板書の読み上げるようにした。	H27 0166PT6-AD
衝動性	行動の目標や評価を視覚的に行うカードを作成して、取り組めるようにした。	H25 0095PT1-AD
衝動性	「発表するときは手を挙げる」など、授業中のルールを明確に提示し掲示した。	H25 0115PT2-AuAD
活動や場にそぐわない発言や行動	全体の活動の中で個別に頑張る事を本人と確認し、そのためにすべき行動を事前に確認した。	H27 0204PC4-EDAD
認知面	一つの事に着目できるような教材(漢字支援カードなど)を用意した。	H27 0007Pt1-Au
集中できない	自発的に取り組める活動を増やし、受け身でよく時間を減らした。	H27 0116PC2-IDAu
集中の持続ができない	支援員が近くで声掛けをした。	H26 0345Pt2-IDAu

表3-12-1 その他の困難さに関する合理的配慮 (1)

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>一斉指導での指示理解の苦手さ</b>		
一斉指導での指示理解の苦手さ	指示のポイントを個別に声掛けし、絵カードを見せ視覚的に理解できるようにした。	H27 0248PT3-LD
一斉指導での指示理解の苦手さ	教員が全体に指示した後に、個別に確認したり指示したりできるように担任の近くの座席にした。	H27 0127PC5-LDAD,H26 0345Pt2-IDAu
一斉指導での指示理解の苦手さ	友達に尋ねたり、進捗を確かめ合ったりしやすくするために、できるだけペア学習場面を取り入れた。	H27 0127PC5-LDAD,H26 0107PC4-LD
一斉指導での指示理解の苦手さ	説明時には、A児をモデルにすることで、A児が具体的にイメージしやすいうようにした。	H27 0127PC5-LDAD,H26 0107PC4-LD
一斉指導での指示理解の苦手さ	教員が話す前にA児に声掛けをして集中を促し、話を聞く準備を整えさせるようにした。	H27 0127PC5-LDAD,H26 0107PC4-LD
一斉指導での指示理解の苦手さ	教員が話す前に拍手をする事にし、これから指示が出る事が分かるようにした。	H27 0127PC5-LDAD,H26 0107PC4-LD
一斉指導での指示理解の苦手さ	目標を書いたプリントを机に貼っておき、自分で行動できたときには褒めながらシールを貼ることで、意欲を高められるようにした。	H27 0127PC5-LDAD
一斉指導での指示理解の苦手さ	板書時は、主要な部分だけを書くようにし、教員の指示を聞くことに注意を向けやすくした。	H27 0127PC5-LDAD
一斉指導での指示理解の苦手さ	算数では、学習内容や活動の順序を、口頭による指示も簡潔に添えて板書して示すようにした。	H27 0127PC5-LDAD
一斉指導での指示理解の苦手さ	必要に応じて、座席のそばに寄って、指示内容のポイントを示すようにした。	H25 0104PT3-LD
一斉指導での指示理解の苦手さ	全体に指示した後に、個別に確認したり指示したりしやすいうように担任の近くの座席にした。	H26 0107PC4-LD
一斉指導での指示理解の苦手さ	机に行動指標を書いて貼っておき、自分で行動できたことは、褒めて自信をもたせ、シールなどで賞賛が目に見えるようにして意欲をもたせるようにした。	H26 0107PC4-LD
体育での順位や結果へのこだわり	個別の声掛けについては、一つ一つにきちんと注目させるよう、児童の名前を呼んだり、間を取ったりして、注意喚起した。	H26 0107PC4-LD
一斉指導での指示理解の苦手さ	発言のルールを決め、挙手をするとき、自由発言のときの指示を丁寧にし、A児が活動についてこられるようにした。	H26 0107PC4-LD
一斉指導での指示理解の苦手さ	学級においては、掃除当番、給食当番などすぐに分かるよう名札を掲示した。また、委員会活動の日を忘れないように、机に曜日を書いたビニルテープを貼った。	H26 0107PC4-LD
一斉指導での指示理解の苦手さ	朝の会、帰りの会では、会の進め方をカードにしておき、いつでも見ながら言えるようにした。	H26 0107PC4-LD
一斉指導での指示理解の苦手さ	必要に応じて付箋紙メモやヒントカードを渡すなどの工夫を行った。	H25 0086PT5-AuLDAD
音声のみの指示では理解が困難	視覚的情報を活用して、情報が分かりやすく伝わりやすいうようにした。	H27 0252PC3-LD,H27 0203PC1-AD
指示の理解の困難さ	全体に指示をした後で、改めて机間指導の時に声掛けした。	H27 0262PC4-LD
指示を聞き逃すことが多い	細かく指示を出したり、そばで繰り返し伝えたりして、指示を聞き逃さないようにした。	H27 0299PC1-IDAuAD



表3-12-2 その他の困難さに関する合理的配慮(2)

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>発言の困難さ</b>		
発言の困難さ	リラックスのした話せるように、事前指導をした。	H27 0285PC5-HeED
発言の困難さ	考える時間と、ノートに考えをまとめてから発言させるようにした。	H27 0285PC5-HeED
人前で話せない	どのようなときに緊張度が高いのか、どのようなときにリラックスできているのかを把握し、それに基づいた支援計画の作成を行った。	H25 0121PC6-ED
発表場面での発言の苦しさ	他の児童の模倣を行う事を指導、ペア学習場面を増やした。	H27 0203PC1-AD
話すことが苦手	個人用のホワイトボードに自分の考えを記入し、担任が代読した。	H26 0146PC4-EDLD
話すことが苦手	時間制限内に発言させることをやめ余裕をもって話ができるようにした。	H26 0387PT6-SI
話すことが苦手	A児が発表をする際に学級担任が聞き取りやすくするために、A児の座席を一番前にした。	H25 0067PT4-ED
話すことが苦手	授業中の担任の対応の工夫し発言前の心の準備の機会を作った。	H27 0216PT3-SI
全体へ話すのが苦手	緊張が高まり身体が硬直してしまった際には、支援員が肩をたたいて動くように促したり、背中をそっと押して行動するように指示を与えたりした。	H25 0120PC6-ED
全体へ話すのが苦手	話しやすい環境作りをした。	H26 0257PS1-He
<b>学習意欲の低下</b>		
学習意欲の低下	スモールステップで達成感を持ちやすいように、目標を細かく設定した。	H27 0248PT3-LD
体育での順位や結果へのこだわり	個別指導やスモールステップによる指導をした。	H27 0166PT6-AD
学習意欲の低下	取組始めた時に評価し、モチベーションを維持できるようにした。	H27 0264PT2-AuAD
学習意欲の低下	一問ずつスモールステップで取り組めるように支援員が支援した。	H27 0273PT1-AuAD
学習意欲の低下	書く量を減らしたり、問題文を減らした。	H25 0043PT2-LD
学習内容の理解	補助教員が補足説明を行う	H27 0203PC1-AD
学習の遅れ	習熟度別の少人数指導を実施し、課題数を減らしたり、基礎的な課題を多めにする。	H27 0194PC3-IDSI
学習の遅れ	登校できないときには、担任と支援員が自宅を訪問して学習を実施した。	H26 0247PC3-He
学習理解の困難さ	座席を前にして常に教員の目が届くようにし、全体に指示を出した後、A児の支援に当たるようにした。	H25 0118PT2-ID
学習の遅れ	個別指導を行った。	H26 0435PT6-IDAu

表3-12-3 その他の困難さに関する合理的配慮(3)

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>身の回りのことに関する困難さ</b>		
整理整頓の苦手さ	机の上の整頓について声掛け、気になる道具がある場合は担任が預かった。	H27 0244PT3-LDAD
整理整頓の苦手さ	机上整理のために、文房具の配置図を写真に撮って、休み時間に黒板に掲示するようにした。	H25 0092PT3-LD
整理整頓の苦手さ	個別に目標の時間を示して、場面に応じた言葉掛けを行い、片付けをすることを促した。	H26 0343PT-Au
整理整頓の苦手さ	牛乳パックで作った小物入れに、なくしそうな物や他の児童と間違えそうな物を入れて保管するようにした。	H25 0108PT3-AuAD
整理整頓の苦手さ	とりあえず片付ける箱を用意して、後で支援員と共に整理するようにした。	H27 0246PC3-AD
忘れ物が多い	学習用具をそろえるために、自己チェックできるような「持ち物チェックシート」を用意した。	H25 0092PT3-LD
忘れ物が多い	情報端末用のチェックシート式アプリケーションを活用し、学習用品などの持ち物や薬の服用のチェックをした。	H25 0003PT4-AD
忘れ物が多い	個別指導を行った。	H27 0116PC2-IDAu
給食を上手に食べられない	個別指導や担任からの声掛けを行った。	H27 0116PC2-IDAu
給食を上手に食べられない	食器を持って食べることや、こまめにハンカチで口を拭くなど給食での目標を示し、声掛けをした。	H27 0244PT3-LDAD
<b>時間を意識して行動することが困難</b>		
時間を意識して行動することが困難	スケジュールを事前に黒板に書いた。	H27 0127PC5-LDAD
体育での順位や結果へのこだわり	短時間で終わる課題を組み合わせる「授業のユニット化」を行った。	H25 0092PT3-LD
時間を意識して行動することが困難	毎時間の初め、授業の流れを黒板の左端に箇条書きで板書し、1つの項目が終わるごとに、花丸シールをつけ、今のような活動をしたか分かる工夫をした。	H25 0043PT2-LD
<b>短期記憶の弱さ</b>		
短期記憶の弱さ	学習活動の流れを黒板左隅に提示した。	H25 0109PT5-AuAD
短期記憶の弱さ	「今何をする時間か」を確認しやすいよう、矢印で指したり、A児と目を合わせて文字カードを指さしたりして、気付けるようにした。	H25 0109PT5-AuAD
短期記憶の弱さ	話し合いでは学級全員の名札マグネットカードを活用し、発表者の考えを黒板に貼るようにした。	H25 0109PT5-AuAD
短期記憶の弱さ	話し合いでは、話し合いの目的・司会進行などの役割・話し合いの進め方を書いて示し、説明してから小グループでのグループワークを取り入れるようにした。	H25 0109PT5-AuAD

表3-12-4 その他の困難さに関する合理的配慮(4)

困難さ	配慮内容	事例ファイル名
<b>見通しの持ちにくさ</b>		
見通しの持ちにくさ	学習や行事等の見通しをもたせるためのカードや絵を作成・活用した。	H25 0066PT3-ED
見通しの持ちにくさ	授業の最初に本時の学習予定を板書した。	H25 0108PT3-AuAD
作業手順を覚えることが困難	視覚的に作業手順を示すことで、見通しを持って作業できるようにした。	H27 0248PT3-LD
課題の処理に時間がかかる	時間内に取り組む課題の量を調整した。	H27 0262PC4-LD
学習の準備が難しい	座席位置を工夫して、周囲の児童の動きが分かるようにした。	H27 0244PT3-LDAD
学習の準備や道具類を忘れやすい	準備物を写真やスライドで提示した。	H27 0174PC1-Au
作業に時間がかかる	課題の量を調整したり、時間を延長したりした。	H25 0031PC3-PD
活動や作業が遅れる	学習内容や作業の順番を板書しておき、指示も板書でするようにした。	H26 0107PC4-LD
見通しの持ちにくさ	学習に目標を設定し、見通しを持たせた。	H27 0174PC1-Au
作業が遅い	学習量を減らしたり、宿題を少なくしたりするようにした。	H25 0097PT3-Au
<b>排泄の困難さ</b>		
トイレに関する困難さ	トイレの処理などの支援をするため支援員の配置をした。	H26 0247PC3-He
トイレに関する困難さ	校内電話を活用した担任、支援員、養護教諭間の連絡網の整備を行った。	H26 0247PC3-He
排泄の困難さ	学年が変わる毎に、教室に一番近いトイレを改修した。	H27 0128PT3-PD
<b>2例以下の困難さ</b>		
自己肯定感に課題がある	「何分で」「何分まで」という指示を板書し、時間を意識しながら活動に取り組み、達成できる機会をふやした。	H27 0127PC5-LDAD
自己肯定感が低い	通常の学級での学習では、無理のない範囲で、プリントや教材を多めに用意し、失敗したら新しいプリントを使うこととし、作業を最後までやり通せるように配慮した。	H25 0096PT2-AuLD
周囲の状況を把握する事が苦手	作業手順がわかるカードを用意し、次に何をすべきかが分かるようにした。	H27 0127PC5-LDAD
周囲の状況を把握する事が苦手	手順がわかるカードを提示して、見通しを持ちやすくした。	H25 0096PT2-AuLD
空間認知に困難	教室のどこに集中すればいいか分かるように、教室の黒板上の前面掲示をなくして、余分な視覚刺激を取り除いた。	H27 0299PC1-IDAuAD
空間認知に困難	五線紙に写譜する際に、対応する箇所が分かりにくいいため、写譜する五線紙と白紙の五線紙の対応する左端に同じ数字を①②...と付けることにした。	H26 0401PC1-ID
視覚的に捉えることの困難さ	漢字の学習で、視覚的に認識しやすいように、漢字を部首やつくり毎に色分けしたワークシートを作成し利用した。	H25 0069PT6-LDAD
書字をきれいに書くことのこだわり	他者評価を示すことで正確さに目安を持たせた。	H27 0143PC2-AuAD
体育での順位や結果へのこだわり	授業内での役割を担うようにする事で、気持ちの切り替えができるようにした。	H27 0204PC4-EDAD
楽譜を読むことが苦手	音符にふりがなをふる。リコーダーでは運指をイラストに描いて示すようにした。	H27 0333PT3-LD

## 4. 考察

この章では、合理的配慮に関する研修資料の基礎資料を得るために、小・中学校の通常の学級における児童生徒の学習や生活上の困難さと、それに対する合理的配慮内容を整理した。

実践事例データベースに掲載している事例は、モデル事業を受託した地域の学校でもあり、平均的な学校よりも特別支援教育体制の整っている状況であることが推測できる。こうしたことを鑑みると、そうした学校では個別指導の体制を整備しているようにも考えられるが、合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮、合理①-1-2 学習内容の変更・調整の項目に記述されている合理的配慮では、個別指導を記述した事例が少なく、合理的配慮として記述されている内容の多くは、授業中に担任が行う対応の工夫や指導の工夫、環境の調整等で、新たに大がかりな施設や人員配置を伴わず、教室環境の整備や授業中に全体に対しての指導と併せてできる工夫が多い。特に、支援を必要とする児童生徒に対しての適切な声掛けや、ルビ振りや機器活用などの学習内容の理解を助ける手立て、席の位置や教室環境の整備などの現在ある条件内でできる工夫によって行える合理的配慮が様々にあるということができよう。

国立特別支援教育総合研究所の専門研究A（重点推進研究）インクルーシブ教育システムにおける教育の専門性と研修カリキュラムの開発に関する研究(2012)では、小・中学校の通常の学級担任に求められる専門性として、「インクルーシブ教育システムの構築のために通常の学級の教員には、障害を含む多様な教育的ニーズのある子どもを理解し、教育環境を整備し、学級づくり、授業づくり、生徒指導などに取り組むことが必要である」と、教育的ニーズのある児童生徒が学級にいることを意識しながら、学級全体の運営を行っていくことが重要であることが述べられている。この考え方は、今回整理した合理的配慮内容が示す考え方と同一の趣旨だと考えられる。

こうした、現在ある条件内でできる工夫を考えるに当たっては、児童生徒が学習の中で感じている困難さに対して、その困難がどのように生じているか、個々の障害の特性だけでなく、周囲の状況を含めて考える必要があるだろう。平成29年6月改定の小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編（文部科学省，2017）では「障害の種類や程度を的確に把握した上で、障害のある児童などの「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた様々な「手立て」を検討し、指導に当たっていく必要がある。」と述べられている。指導の工夫は合理的配慮と全く同じものという事はできないが、合理的配慮においても、障害のある児童などの「困難さ」に対する支援の意図を検討した上で、合理的配慮を考える必要がある。

例えば、合理的配慮として「教材・教具による工夫」を行う際には、「読みの困難」に対しては音声付き教材、「書きの困難」にはキーボードで入力、といった単純な当てはめ方では問題の解決にならないことがある点に留意が必要である。一例として「読み

の困難」に対しては、ルビ振りで対応できるケースもあれば、逆にルビが視覚的に余計な情報になり、読みにくさが増してしまうケースもある。そのような場合には、音声を付加したデジタル教材が選択肢として考えられるが、そのような「特別な道具」を一人だけクラスの中で使うことに、子供自身が抵抗感を示す場合もある。このように「読みの困難」一つとって考えても、個々の特性や心理面に合わせた適切な選択が求められる。

どのような手段を導入するにせよ、一人一人が自分にあった学習方法を選択できることが当たり前を受け入れられるような、学級づくりが必要だと言えるだろう。そのためには、教師側がそういった「合理的配慮としての教材の工夫や機器の活用」に対しての抵抗感を持たないことが前提である。これまでの情報機器の多くは、一斉指導における教師・支援者側からの情報提示・教授のために使われていたが、これからは、タブレットに代表される ICT 機器などの教材・教具は、学習者一人一人が、自分にとって最も適した学び方を選択するための手段となることを理解しておく必要があるだろう。

このような視点でインクル DB の事例を見直したときに、対象児童の困難点の把握と対応だけでなく、他の比較的学びが定着しにくい他の子供への支援も含めて、どのような学級づくりを行なったかについて、有益な示唆を与えてくれる事例がある。このような事例によって、合理的配慮に基づいて、より学びやすい環境づくりをすることや、具体的な教材教具の工夫や機器活用を進めることで、児童生徒の学びや意欲が高まることが理解できるだろう。

#### 引用文献

国立特別支援教育総合研究所（2012）専門研究A（重点推進研究）インクルーシブ教育システムにおける教育の専門性と研修カリキュラムの開発に関する研究（研究代表者 澤田 真弓）

文部科学省（2017）小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編